

GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

2009.3/1
Vol.

9

ガバナー月信

2008～2009年度 国際ロータリー第2650地区テーマ「次の世代にときめきを」



目次● CONTENTS

ガバナーメッセージ	2
地区 RYLA 開催要項	3
フィジーミッション報告	4
ガバナー補佐随想	5・6
1月会員数の増減および出席率表	7
地区公示・1月の会員の動き	8



特別講演会 「地球温暖化の原因について」 受講報告

ガバナー 川 端 五兵衛

去る2月12日(木)、堀場雅夫パストガバナーのご厚意で地区内ロータリアン40名ばかりが堀場製作所の学術研修会に参加し、アラスカ大学からお招きされた赤祖父俊一先生の地球温暖化についての講義を受けることが出来ました。当日の2時間にわたる講義(オーロラ研究に始まり昨今の温暖化に至る)すべてをお伝えすることはできませんが、ここでは温暖化に絞って紹介させていただきます。まず先生は「20世紀後半(実際は1975年頃より)の温暖化は炭酸ガスによるものとは仮定でしかない。不幸にしてその仮定から推定された気温上昇が大災害を引き起こすということになり、一挙に人類の大問題ということになってしまった。ここではそれに関する二つの問題を論ずる。第一は自然による気候変動、第二はスーパーコンピューターによるシミュレーションについての問題である。」とされました。

「温暖化の原因は自然変動」

元々地球の気候は過去の人間活動に関係なく種々の変動を繰り返しており、現在の地球温暖化の原因も又その大部分は「自然原因の気候変動である」とされました。全体から自然変動の部分を差し引いてはじめて人類活動による変動部分が正確に推定できるものである。従って、過去の気温変動から炭酸ガスが急速に増えだした1946年以前の変動を自然変動、それ以後は両者が合わさったものであり、これらを比較すればここから温暖化に対する炭酸ガスの影響度が推測できるというものでした。先生の著書『正しく知る地球温暖化』によれば、この方法で算出すればその温室効果はわずか1/6程度というものでした。(100年間に自然変動0.5℃、炭酸ガスによるもの0.1℃の合計0.6℃の上昇)。

「小氷河期からの回復すなわち温暖化」

そして第一の自然変動には二種類の原因があり、その一つは「小氷河期からの回復」であり、実際に1400年から1800年まで地球全体が寒冷化を経験していたこと、その記録は非常に多く残っていることからこの寒冷化を小氷河期と呼び、そこからの回復が続いている為に現在地球は温暖化現象下にあるというものです。氷河の後退も北極海の海氷の減少も1800年頃から始まったものであり、炭酸ガスによるものではなく小氷河期からの回復に伴う気温上昇であり、過去100年の温度上昇率は0.6℃であって現在までの温度上昇は大部分が小氷河期からの回復であるとされました。

「準周期変動」

二つ目には地球には50～60年の準周期変動というものがあり、この変動は1910年から1940年までのポジティブ(気温上昇)と、1940年から1975年までのネガティブ(気温下降)、そして、1975年から2000年まで再びポジティブとなり、2000年のピークを過ぎた現在はネガティブになりつつある。この確実な証拠として2000年頃より地球温暖化が止まってしまった具体的な数値をグラフに示され、この現象は一時的なものではなくネガティブになりつつあるとのことでありました。

このことから、現在の温暖化の原因が炭酸ガスであるとは決められず、もしこのネガティブが一時的であるとしてもそれなら逆に日々増え続ける炭酸ガスの温暖化を抑える「何か」があるということである。その何かこそ「自然変動」以外に考えられないとされました。

そしてこの気温下降に伴い太平洋の海水温度も準変動周期により変動して、現在太平洋の中央部分全域の海水温度、全海洋の海水温度も降下していること、またこの水温変化は地球全体の平均温度変動に強く影響を及ぼしており、世界の海面も降下してきているといわれ、もし小氷河期からの回復が今後100年続くとなると、それによる温度上昇は2100年に0.5℃とされ、その時期の準周期変動が気温上昇か気温下降によって2100年の気温が決まるといわれ、振幅は0.4℃程度と考えられ、両方を加えても1℃程度しか気温上昇がないとのことでした。

「コンピューターによるシミュレーションの問題」

加えて先生は現在仮定されている4℃～6℃の気温上昇は考えられないといわれ、その理由は、コンピューターシミュレーションによる気温予測であり、論理的にシミュレーションされたものではなく、コンピューターに入力された情報のみを予測して計算されている情報であり、入力情報に誤りがあればシミュレーションにも誤りが生じることは当然ということになるといわれました。これは人類の活動による炭酸ガスの放出量が増加したことを入力情報とした結果であり、実際の準変動周期を考えて計算されているのではなく、今後その結果が変わってくることを認識しておかなければならないこともつけ加えられました。

「今後の課題」

最後に先生は学者という立場をはずれて「地球温暖化問題は学者が言い出した問題であり、大災害を予測しているのも学者である。問題がここまで混乱すると大きな社会問題でもあり、当然科学者、特に気候学者にも重大な責任がある問題である。単に「研究に誤りがあった。」では済まない段階にきている。少なくともIPCCはなぜ2000年から温暖化が止まってしまったことを認め、誤りがあったことを直ちに公表すべきではないか。炭酸ガス論を主張してきた研究者にも再考をお願いしたい。」と呼びかけられ「エネルギー資源には限界がある。省エネは大切である。しかし地球温暖化で大災害が起きるとして一般市民を脅かす必要はない。科学的根拠がない。『省エネ』だけで十分である。」と結ばれました。

「おわりに」

しかし、先生の危惧にも拘わらず、昨今、炭酸ガス(CO₂)の削減は地球温暖化防止の最大の手段として世界に喧伝されています。京都議定書から4年、国のCO₂削減の方針を受け、東京都をはじめ自治体も条例の制定や具体的な取り組みのための予算策定を、また経済団体や企業もそして国民もひたすらその方向を目指しています。

振り返れば、私の住む滋賀県ではかつて(1977年)琵琶湖の富栄養化の原因が合成洗剤にあるとして、富栄養化防止条例の制定と並行して天然油脂を原料とする石鹸への切り替えを進める「せっけん運動」が展開されました。その結果50%を超える県民がその切り替えを果たし、赤潮などの発生原因であった富栄養化にストップをかけた事は記憶に新しいところであります。当時私はこの一連の運動は県民に対する社会教育であったと結論づけました。この官民一体の運動の成功の要因には琵琶湖の水環境を守るうという県民のコンセンサスの外に、これを支える合成洗剤による富栄養化説に

対するエビデンス(科学的根拠)があったことを見逃すわけにはまいりません。その意味でこの地球規模にまで拡大した課題解決のために炭酸ガスの温暖化主要因説のエビデンスが一日も早く確定され、その真否が明らかにされることを願うものであります。

ロータリアンの私達にとって、4つのテストの第一項「真実かどうか」は最も大切なことだからです。繰り返しになるうかと思いますが科学の問題を政治や経済で論ずることは許されません。宗教裁判で地動説を捨てたガリレオが「それでも地球は動いている」と言い残した「真実」はいずれの説に味方するのでしょうか。排出権取引が本格的に取りざたされる今日、一日も早いエビデンスが欲しいものです。

最後になりましたが、赤祖父先生には遠路態々アラスカからお運びいただき、大変有意義なそして貴重なご講演を賜り本当にありがとうございました。参加者一同心から御礼申し上げます。先生におかれましては、今後とも益々ご健勝でご活躍をいただきますようお祈り申し上げます。また、株式会社堀場製作所様におかれましては幹部のための学術研修会に特別参加をお許しいただき、心から感謝申し上げる次第でございます。御社の今後益々のご発展を心からお祈り申し上げ感謝の言葉にかえさせていただきます。有難うございました。

赤祖父 俊一 先生

略歴 1930年 長野県生まれ。1953年東北大学理学部地球物理学科を卒業。同大学院在学中の1958年にアラスカ大学大学院に入学。1961年博士号取得。1964年アラスカ大学地球物理研究所教授に就任。1986年から1999年までアラスカ大学地球物理研究所の所長。2000年から2007年まで、アラスカ大学国際北極圏センター所長を務める。オーロラをはじめ、地球電磁気学や北極圏研究における世界的権威。著書に「オーロラ、その謎と魅力」(岩波新書)、「北極圏」(白日社)、「正しく知る地球温暖化」(誠文堂新光社)

2008~2009 年度 R.I. 第 2650 地区 RYLA

PART I

■開催要項

- 【日 時】 2009年4月12日(日) 午前8時30分 登録受付
開会9時30分 午後4時50分 終了予定(地区大会会場にて解散) ●地区大会と同時開催
- 【会 場】 アヤハレークサイドホテル 大津市におの浜3丁目2-25 TEL 077-524-2321
- 【交 通】 JR大津駅より シャトルバス運行(随時) 車5分
地区大会会場(大津プリンスホテル)より シャトルバス運行(随時) 徒歩10分
- 【参加者】 受講生 96名 地区役員・地区委員 約15名 ロータリアン 若干名(ロータリアン「カウンセラー」は地区大会参加)
- 講師予定 講演 (株)イー・キュー・ジャパン 代表取締役 高山 直氏

PART II

■開催要項

- 【日 時】 2009年5月22日・23日・24日(金・土・日) ●左記日程で2泊3日開催
22日午前10時30分 登録受付 開講式 午後1時 24日(日)午後1時00分 終了予定
- 【会 場】 22日 滋賀県立琵琶湖博物館 滋賀県草津市下物町1091 077-568-4811
22日午後～ びわ湖パレイ 滋賀県大津市木戸1547-1 077-592-1155
- 【交 通】 滋賀県立琵琶湖博物館 JR琵琶湖線草津駅より バス25分
びわ湖パレイ 名神京都東IC~湖西道路「志賀IC」より5分
- 【参加者】 受講生 96名 地区役員・地区委員 約15名 ロータリアン 96名(カウンセラー)
- 講師予定 講演 県立琵琶湖博物館 学芸員(株)イー・キュー・ジャパン 代表取締役 高山 直氏
- 開催協力 ・びわこ成蹊スポーツ大学

「ブラア」フィジィ 感動のフィジィミッション

世界社会奉仕委員会 委員長 平田 好祐
(福井フェニックス RC)

フィジィでは老若男女を問わず、全ての人が、人に出会うと人懐っこい声で「ブラア」と声をかけてくる。空港で!!街角で!!とにかく陽気だ。

2008年～2009年フィジィミッションは、当初57名の申込み。ミッション前日になると、なんと41名。毎日2名ずつ8組がキャンセル。ロータリアンは、マイビジネス。エヴリデイ激務。且つ、多忙にも拘らず、奉仕事業に邁進しておられる素晴らしい人ばかり。ぎりぎりまで熟慮されて、その結果「行きたいんだけど仕事の都合で今回は誠に申し訳ない」との陳謝の声。世界社会奉仕委員長としても、ただ頭の下がる思いで一杯でした。

フィジィミッションの出発日より一週間前、JICAの塚越氏よりメールが入り、フィジィは1月10日より大雨が降り続き、フィジィのナンディ地区は大洪水。シェラトンホテルの入り口付近、ナンディ、メインストリートの大洪水風景の写真が続々送られてきました。このナンディに国際空港があり、ここにミッションの隊員は到着し、そこからスバに向けてバスで約6時間の行程。この大洪水では運行が不可能だとの事。委員長としてミッションの安全性を考えると中止という考えが一時浮上してきました。体調不良で参加することが出来なかった川端五兵衛ガバナーの委任を受けられた橋本長平バスターガバナー団長にご相談させて頂いたところ「フィジィ大洪水だとなおさら行くべきだ」との強い御言葉。WHOの佐藤医務官より「フィジィミッションは予定通り進めばよいのだな」との確認のTEL、「予定通り、フィジィミッションは決行します」と決死の言葉。この言葉の背景には橋本長平団長の強いお言葉の後押しがあったからに他なりません。

1月24日(土)16時、成田国際空港に集合。

即結団式、教育支援物資、その他、バックキングケースとして15個を手荷物として通関、空路ナンディ国際空港へ8時間40分のフライト、時差は3時間。到着は現地時間の6時40分着日本時間は午前3時40分、全員寝不足気味。且つ現地は真夏、気温は35度。途中蘭の植物園により11時過ぎナマタク村到着。そこで待ち受けていたのは入村式、カバの儀式、村の長老5人が橋本団長、松村副団長を前に、コショウ科の植物の根を粉末にした粉を布に入れ、水で溶かし始めました。色はセメント色。うやうやしく橋本団長にこのカップに入れたカバをブラアと言いながら勧めました。団長が飲み干し「ブラア」。その味は美味しくないのなんの!!全ての隊員は飲み干した後、「ブブブラア」。カバは精神の沈静作用もあるとの事。全員が飲み終わって、「皆様は村の一員になりました。」との村長の言葉。村で食事をし、3時間程バスに揺られ、スバホリディンに到着。長いバスの旅の為、皆様お疲れ気味でした。翌朝、このホテルで10時より引渡し式。①ソーラー焼却炉の贈呈。②小児を対象としたB型肝炎ウィルス感染率・微量栄養素調査の実施に掛かる援助。③ポリオワクチン投与。④レプカ小学校への教育支援。⑤JOCV現地隊員への支援等の調印式が橋本団長とフィジィ保健省統括病院局長キティ氏とWHO西太平洋地区代表ドクターチェン氏との間で行われました。また、ご挨拶には先の御両名と吉沢裕特命全権大使、スバRC会長ペーテル氏の方々が立たれました。又、2650地区より洪水災害の義援金を橋本団長より保健省局長に贈呈されました。次にJOCV隊員の活動報告等が行なわれ盛大なハンディンオーバーセレモニーを無事終了しました。



1月27日、早朝4時モーニングコール。オバラウ島ヘチャーター機による隊員のピストン輸送。例によってフィジィタイム。予定時刻にはチャーター機は飛行場には到着していないとの事、また佐藤医務官にお世話になり、フライト確認。定員は15名。4便に別れて搭乗。最終到着は10時30分。オバラウ島の町はレプカと言い世界遺産に登録中との事。町は1850年代に建てられたスペイン風の異国情緒の漂う町でした。レプカの中心より少し外れたレプカ病院でのポリオ投与、ソーラー焼却炉火入式を午前中に終わり、午後はレプカ小学校での教育支援、またまたカバの儀式にはじまり、全員サルサル(花のレイ)のプレゼント。教育支援の手渡し式、2650地区の教育支援のハーモニカ、木琴、トライアングル、鈴を使った楽器演奏、歓迎の踊り、日本の風あげ、最後は全員で手につないでの大合唱。ミッションの隊員多くが感動で涙を流しておられました。翌日は4班に別れてスバへ。ところがまたまたハブニング。1便から3便までは無事に到着。4便が飛び立つ前に翼をフェンスにぶっつけ、本日はスバに戻ることは出来ないとの事。

団長決裁でレプカ泊。直接ナンディ着。スバRCとの合同例会は4便の搭乗の出席予定者8名は欠席。33名で例会に出席し友好を深めました。1月29日、空路ナンディ着、即3班に別れてポリオ投与、当日は大雨にも拘わらず奥地に入り、300名のポリオ投与を行ないました。夕方は川端五兵衛ガバナーによるガバナーパーティ、ミッション参加の感動と喜びを互いに語り合い、大いに友好を深めました。最後にこのフィジィミッションの成功は川端ガバナーのご賛同と委任を受けられた橋本バスターガバナー団長との強いご支援、松村幹事長副団長の後押し、ミッションご参加の皆様のご協力、2650地区全ロータリアンの特別寄付、京都乙訓RC、奈良県下及び滋賀県下ポリオチャリティゴルフ、福井ポリオ特別募金、WHO佐藤医務官、JICA塚越氏、JICAの皆様、日本旅行の皆様のご絶大なる御支援を心より感謝して筆を置かせていただきます。





「ロータリーの森」とその後

好川 嘉則

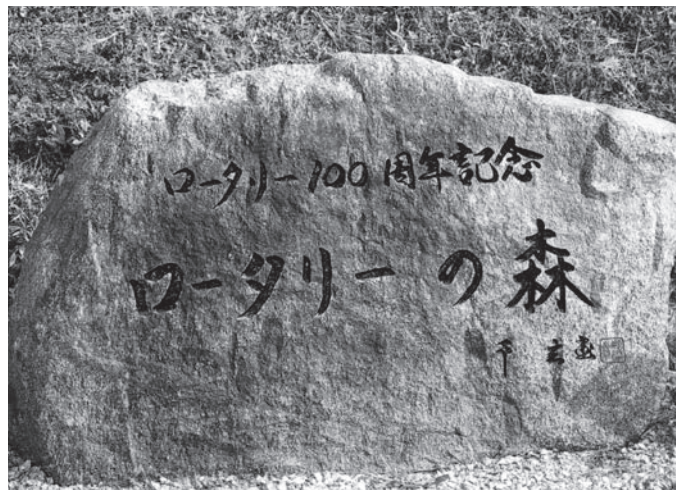
(檀原 RC)

このたび良い機会を頂きましたので「ロータリーの森」とその後について報告させていただきます。当時はクラブ会長をさせて頂いておりましたので、その生育に今も思いを馳せている次第です。

2004~2005 年度にロータリーが 100 周年を迎えましたことは皆様ご記憶にあらうかと存じます。国際ロータリー第 2650 地区において、檀原ロータリークラブが立案・推進しました「ロータリーの森」計画を、記念事業の一つとして決定して頂きました。

日本の歴史並びに文化の発祥地である明日香村栗原の面積 2763 m²ある里山に、ソメイヨシノ、オオシマザクラ、ヤマザクラ、サトザクラ、ナラヤエザクラなど、100 本の桜を植樹して「ロータリーの森」を創設し、特色ある里山風景を復元して、明日香村に相応しい歴史的風土景観の再生を図るのが目的であります。そして地区ロータリー会員皆様のロータリー 100 周年を祝う思いと、ロータリーの奉仕の足跡を、日本の心のふるさと明日香の地に残せることができれば、誠に光栄なことであるとの思いで、檀原ロータリークラブは全員一致で汗を流して、2005 年 2 月 25 日誕生に努力致しました。

「ロータリーの森」誕生に際しては、RI 元理事・ロータリー 100 周年特別委員会諮問委員・千玄室様に、記念モ



ニュメントに揮毫して頂きました。当時のガバナー・神谷保男様、記念特別委員会委員長・岡村吾郎様、実行委員長・寿栄松憲昭様、地区社会奉仕環境保全委員長・北村寿朗様、明日香村村長・関義清様はじめ多くの皆様に何かとご協力とご支援を賜りました。

さて全国の桜の名所のうち、約 8 割がソメイヨシノを植えているといわれています。薄いピンク色をしたやや大きめの花が枝にびっしりつき、他の桜より若いうちから咲いて、華麗に見えます。また、古事記には、神功皇后の時代から桜を鑑賞していたと記されており、日本人と桜の歴史の繋がりの長さには驚かされます。見る人は変わっても、同じ場所で咲き続け、散り続ける桜の美しさや儚さが、私たち日本人の民族性や感性を醸成してきたのかもしれない。

今後「ロータリーの森」が、全国からの観光に来て下さる方の心を癒し、地域の皆様に喜んで頂ける憩いの場所となるように、明日香村ともよく相談して、草刈と補植の手入れをし、管理育成に奉仕していくことが必要と存じています。4 月になりますと、ちらほら咲くようになりましたが、桜が咲き誇り素晴らしい「ロータリーの森」になりますのには、10 年以上かかると思われます。その頃には是非明日香村を訪れて下さいますようお願いしております。





『 雑 感 』 ～私のまちの観光～

西澤 高弘
(東近江 RC)

私の生まれ育った「八日市」は、滋賀県の東部にひろがる湖東平野の中心に位置し、その歴史は古く、聖徳太子が大阪四天王寺を建立するためにこの地で瓦を造らせた時、各地から集まって来た人々に「交易の道」を教え「八の日」に「市」が開かれたことに由来していると言われています。古い歴史と伝統の中で、私たちの郷土は育ってまいりました。

昭和 29 年「町村合併促進法」の施行により、人口 31,102 人・面積 52.55 km²、全国でも非常に小さな市として「八日市市」が誕生いたしました。

私が八日市市の観光に関わって随分になりますが、縁あって平成 13 年に八日市市観光協会を預かることになりました。

自然や歴史文化など地域の特性を活かし、日本一の大鳳「八日市大鳳まつり」をはじめ蒲生野「万葉まつり」など多彩なイベントが実施されてまいりました。

平成 18 年、八日市市と近接六町との合併により、東は鈴鹿山系から西は琵琶湖まで、人口 117,850 人・面積 383.33 km²、県下で 3 番目の大きな「市」となり、八日市市は「東近江市」として新たな歴史を歩むことになりました。

そんな中、一市六町の観光協会を統合し一体化を計るという方針が出され、その大役を担うことになりました。

それぞれの地域には、その地域の歴史文化を背景とした様々な事業が実施されており、地域の町づくりに観光協会として大きく関わっていただいています。組織・運営・事業等地域間で大きな違いがあるだけに一体化が果たして現実のものになるのか不安を抱いてのスタートでした。

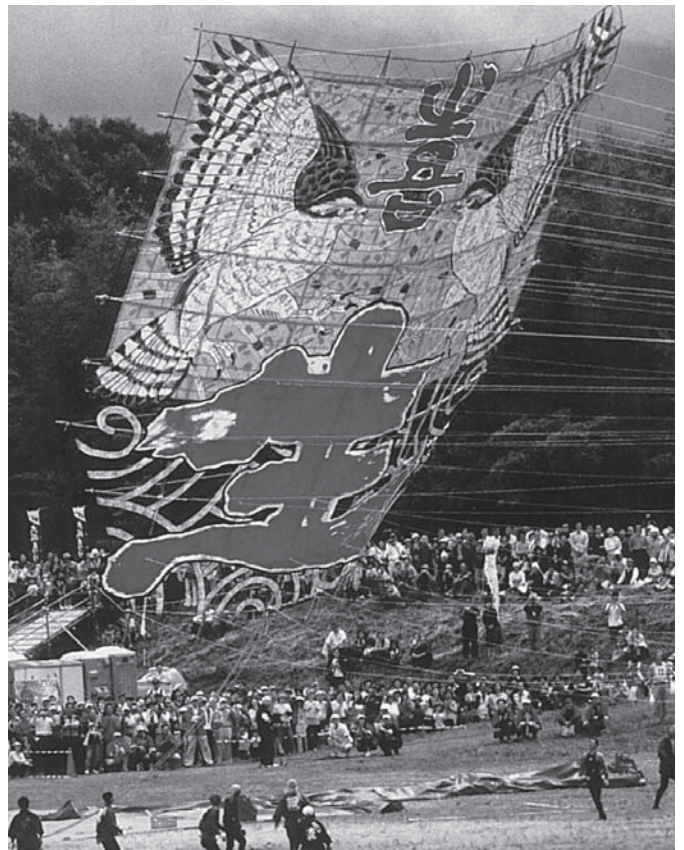
脈々と情熱をかけて、地域で守り積み上げられてきた魅力を拡散しておくことなく統合で多様性という輝きをもって、昨年 4 月色んな経緯を経て念願が叶い名実ともに、「東近江市観光協会」をスタートすることができました。

私たちの町、東近江市は豊かな自然の中に多くの街道があり、聖徳太子ゆかりの地、万葉文化の地、木地師発祥の地、江州音頭発祥の地をはじめ、山越商人や近江商人の活躍な

ど歴史となった場所も多く、社寺仏閣等の歴史的建造物を含め、多くの名高い観光資源に恵まれており、各地に点在する様々な資源を点から線へ、線から面へと結び“ええとこやで東近江市”を広くアピールして行きたいと思っています。

観光とは、地域のもつ様々な「光」を地域の人々が誇りをもって歓也、訪れた人々が地域の「光」にふれていただく交流活動こそが観光であり、歴史、文化、自然、人情、物産などの総合力を見せることがこれからの観光であると思います。

先人が育み、継承してきた自然や歴史を大切にしながら次代に引き継ぐことを願い、様々な活動が地域の活性化につながっていくことを願っています。



2009年1月会員数の増減および出席率表

京都府 (42クラブ)

クラブ名	前月末 会員数	入会	退会	1月末 会員数	期 首 会員数	入会 累計	退会 累計	例会数	出席率	女性 会員数
綾部	36	0	0	36	39	0	3	4	89.28	0
福知山	57	0	0	57	58	3	4	4	92.95	0
福知山西南	45	0	0	45	46	0	1	4	94.81	1
亀岡	39	0	0	39	40	1	2	4	100.00	0
亀岡中央	17	0	0	17	16	1	0	4	98.44	1
京都	199	0	1	198	194	12	8	4	98.36	0
京都伏見	95	0	1	94	91	7	4	4	87.03	3
京都平安	33	0	0	33	35	0	2	3	73.74	4
京都東	110	0	1	109	109	1	1	4	96.50	0
京都北東	36	0	0	36	32	4	0	4	91.13	0
京都城陽	32	0	0	32	30	3	1	4	91.63	0
京都桂川	36	1	0	37	36	2	1	4	93.55	0
京都北	70	1	0	71	69	3	1	4	96.94	0
京都南	223	0	1	222	223	6	7	4	91.78	0
京都モーニング	52	0	0	52	54	1	3	4	88.81	3
京都紫野	62	0	0	62	61	3	1	2	100.00	0
京都中	39	0	0	39	40	0	1	3	99.15	0
京都西	112	0	0	112	110	2	0	3	99.04	0
京都西山	21	0	0	21	22	0	1	4	87.86	0
京都乙訓	34	0	0	34	35	0	1	4	91.60	0
京都洛中	80	0	0	80	78	3	1	3	97.84	0
京都洛北	69	0	0	69	69	2	2	4	89.17	0
京都洛南	37	1	0	38	38	1	1	3	89.19	1
京都洛西	51	0	0	51	50	2	1	4	92.52	5
京都洛東	38	0	0	38	38	0	0	4	89.47	0
京都さくら	32	0	1	31	31	3	3	5	69.73	5
京都嵯峨野	26	0	0	26	27	0	1	3	76.00	0
京都西北	51	0	0	51	50	2	1	4	90.18	0
京都西南	57	0	1	56	61	0	5	4	97.76	7
京都紫竹	46	0	0	46	47	0	1	4	80.94	2
京都朱雀	41	0	0	41	42	0	1	4	85.79	1
京都田辺	24	0	0	24	24	0	0	4	88.54	2
京都東山	79	0	1	78	81	1	4	4	99.31	0
京都山城	39	0	1	38	41	0	3	4	98.65	0
京都八幡	29	0	0	29	30	0	1	4	90.88	1
舞鶴	28	0	0	28	30	0	2	4	92.38	0
舞鶴東	48	0	0	48	48	1	1	4	84.90	0
峰山	39	0	0	39	38	1	0	4	95.38	2
宮津	48	0	0	48	48	3	1	4	91.79	0
園部	29	0	1	28	30	0	2	4	97.22	0
宇治	40	0	0	40	41	2	1	4	100.00	0
宇治鳳凰	43	0	0	43	44	0	1	4	94.77	5
小 計	2,322	3	9	2,316	2,326	70	75	平均 3.8	平均 91.79	43

奈良県 (13クラブ)

クラブ名	前月末 会員数	入会	退会	1月末 会員数	期 首 会員数	入会 累計	退会 累計	例会数	出席率	女性 会員数
五條	35	0	0	35	36	0	1	4	91.10	0
平城京	36	1	1	36	37	1	2	4	85.53	0
生駒	37	0	1	36	38	0	2	4	78.89	0
橿原	72	0	0	72	74	3	5	4	81.00	3
あすか	54	1	0	55	55	2	1	3	95.74	0
奈良	144	3	0	147	141	7	1	4	97.00	4
奈良東	45	0	0	45	45	1	1	4	97.71	0
奈良西	46	1	0	47	49	2	3	4	100.00	1
奈良大宮	66	0	0	66	65	2	1	4	90.79	0
王寺	25	0	0	25	26	1	2	3	93.28	2
桜井	50	1	0	51	50	3	1	3	82.34	0
大和郡山	49	0	0	49	51	1	3	3	90.30	0
大和高田	94	1	0	95	98	5	5	4	94.52	2
小 計	753	8	2	759	765	28	28	平均 3.9	平均 90.63	12

福井県 (19クラブ)

クラブ名	前月末 会員数	入会	退会	1月末 会員数	期 首 会員数	入会 累計	退会 累計	例会数	出席率	女性 会員数
福井	129	0	0	129	128	6	5	4	60.47	5
福井あじさい	46	0	0	46	47	2	3	4	82.93	4
福井東	36	0	0	36	36	3	2	3	73.03	3
福井北	119	0	0	119	120	3	4	4	84.05	5
福井南	64	0	2	62	64	0	2	4	76.89	0
福井西	40	0	0	40	42	2	4	4	81.04	0
福井フェニックス	45	0	0	45	49	0	4	4	72.78	9
福井水仙	21	0	0	21	23	0	2	4	61.90	1
勝山	27	0	1	26	27	0	1	4	87.45	2
丸岡	35	0	1	34	34	2	2	3	80.96	0
三国	46	0	0	46	43	3	0	4	83.33	2
大野	24	1	0	25	25	1	1	4	91.30	2
鯖江	48	0	1	47	50	0	3	4	86.77	1
鯖江北	22	0	0	22	23	1	2	4	83.50	0
武生	63	1	0	64	63	2	1	4	81.46	2
武生府中	36	2	0	38	38	2	2	4	92.11	0
敦賀	47	0	0	47	46	3	2	4	83.71	0
敦賀西	22	0	0	22	24	1	3	3	83.33	2
若狭	33	0	0	33	32	3	2	4	99.24	0
小 計	903	4	5	902	914	34	45	平均 3.8	平均 81.38	38

滋賀県 (22クラブ)

クラブ名	前月末 会員数	入会	退会	1月末 会員数	期 首 会員数	入会 累計	退会 累計	例会数	出席率	女性 会員数
びわ湖八幡	49	0	0	49	50	0	1	4	86.48	1
五個荘能登川	25	0	1	24	22	3	1	2	70.45	0
彦根	72	0	1	71	70	5	4	4	92.55	2
彦根南	64	0	0	64	66	2	3	3	96.27	0
湖南	34	0	1	33	37	1	4	4	95.85	1
草津	43	0	0	43	44	0	1	4	89.90	0
水口	46	0	0	46	49	0	3	4	94.63	1
守山	44	0	0	44	44	1	1	4	89.77	0
長浜	58	0	0	58	58	3	3	2	93.40	0
長浜東	67	1	0	68	65	3	0	4	93.85	0
大津	115	3	2	116	110	13	5	4	100.00	1
大津中央	35	0	0	35	35	1	1	4	78.68	1
大津東	24	0	0	24	24	1	1	4	82.77	1
大津唐橋	23	0	0	23	23	1	1	4	79.05	1
大津西	26	1	0	27	24	3	0	4	96.86	0
近江八幡	62	0	0	62	67	0	5	4	93.20	2
栗東	36	0	2	34	36	1	3	3	84.59	2
滋賀湖北	26	0	0	26	23	5	2	3	85.90	0
高島	42	0	0	42	42	1	1	4	95.71	1
野洲	40	0	0	40	37	5	2	4	87.50	1
東近江	56	0	0	56	56	3	3	4	86.46	0
八日市南	54	1	0	55	55	3	3	3	80.79	2
小 計	1,041	6	7	1,040	1,037	55	48	平均 3.6	平均 88.85	17

合計 (96クラブ)

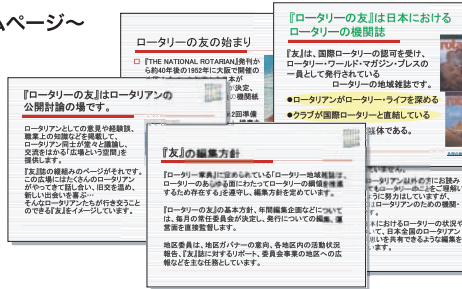
クラブ名	前月末 会員数	入会	退会	1月末 会員数	期 首 会員数	入会 累計	退会 累計	例会数	出席率	女性 会員数
合 計	5,019	21	23	5,017	5,042	187	196	平均 3.8	平均 88.90	110

■表作成にあたって

- ・会員数に、名誉会員は含まれておりません。
- ・入退会者数、1 月会員数および入退会者累計数は、1 月末日現在です。
- ・今年度の「期首会員数」は、平成20年7月1日現在の会員数です。

2650地区の情報満載! <http://www.rid2650.gr.jp/>
～08-09年度地区ホームページ～

地区広報雑誌委員会で4月雑誌月間スピーチ用資料が作成されました。各クラブでは是非ご活用されるようお願い致します。地区ホームページダウンロードセンターへお越し下さい。



地区公示

2011-12年度 ガバナーノミニーの決定

国際ロータリー第2650地区 2011～2012年度 ガバナー・ノミニーについて、RI細則13.020.7.に基づき去る1月20日付にて地区公示を行いましたところ、公示期限の2月28日までに対抗候補者の届出がありませんでした。

つきましては、地区ガバナー指名委員会が推薦した候補者 今西信裕君(京都南ロータリークラブ会員)を、RI細則13.020.9.により、2011～2012年度当地区ガバナー・ノミニーに決定したことを宣言します。

ガバナーノミニー経歴



いまにし のぶ ひろ
今西 信裕
NOBUHIRO IMANISHI
(京都南ロータリークラブ)
生年月日 1940年3月7日生
現住所 〒616-8207
京都市右京区宇多野長尾町20-3
最終学歴 1962年3月
慶応義塾大学経済学部 卒業
職業 株式会社 今與 代表取締役社長
職業分類 貴金属卸売

2004～2005年 会長
2005～2006年 諮問委員会 副委員長・指名委員会 委員・バストガバナー特別委員会 委員
2006～2007年 諮問委員会 委員長・指名委員会 委員・PDG/DAG委員会 委員
RI第2650地区ガバナー補佐
2007～2008年 諮問委員会 委員・指名委員会 委員
RI第2650地区ガバナー補佐
2008～2009年 指名委員会 副委員長・諮問委員会 委員・55周年 副会長
RI第2650地区ガバナー補佐

[その他]
マルチプル・ボール・ハリス・フェロー5回
ベネファクター
第5回米山功労者(マルチプル)
ボール・ハリス・ソサエティ

職歴

1962～1965年 トヨタ自動車株式会社 勤務
1966～1981年 株式会社今與代表取締役常務
1982年～現在 同上 代表取締役社長
1970年～現在 シンユウトレーディング株式会社代表取締役社長
1991年～現在 株式会社ケイエフ代表取締役社長

団体職歴

2003～2007年 社団法人日本ジュエリー協会副会長
2003～2005年 全国宝石卸商協同組合理事長
2002年～現在 東京ダイヤモンドエクスチェンジクラブ副理事長
2005年～現在 株式会社大阪美宝会館監査役
2001年～現在 京都商工会議所 常議員 2号議員
1985年～現在 右京納税協会常任理事
2007年～現在 社団法人日本ジュエリー協会会長

賞罰

なし

ロータリー歴

[クラブ関係]

1987年10月8日 京都南ロータリークラブ入会
1989～1990年 副S.A.A. I.M.実行委員会 司会・進行部会副部長
1990～1991年 国際奉仕委員会 副委員長
1991～1992年 副幹事
1993～1994年 レディース委員会 委員長
創立40周年記念事業実行委員会祝宴委員会 祝宴会場班委員長
理事(職業奉仕委員会 委員長)
1995～1996年 会員増強委員会 委員長・創立45周年準備委員会 副委員長
1997～1998年 西村二郎ガバナーエレクト事務所総務担当幹事
2000～2001年 西村二郎ガバナー事務所総務担当幹事
2002～2003年 南クラブ特別委員会 副委員長・会長ノミニー
2003～2004年 会長エレクト・バストガバナー特別委員会 副委員長

2009年1月会員の動き

◆新入会員

大野	玉木 忠	建設業
武生	井上 常宏	再生資源卸売業
武生府中	上嶋 俊義	コンピューター開発
武生府中	上嶋 敏彦	自動車販売
大津	西村 均	厨房機器販売
大津	村田 健二	自動車整備
大津	数本 俊作	総合建設

大津西	日高 孝次	食材企画販売
長浜東	馬場 壽夫	水産物販売
八日市南	向 真史	食品卸
京都桂川	中川 俊夫	自転車製造業
京都北	北尾 善孝	外科医
京都洛南	松林 秀悟	税理士
あすか	米田 昌弘	清涼飲料水製造業

桜井	吉田 彰	旅行斡旋業
大和高田	木原 常裕	公認会計士
奈良	石本 千明	信託銀行
奈良	高木 信一	自動車販売
奈良	福村 浩之	不動産賃貸
奈良西	山田 哲之	生命保険業
平城京	松嶋 秀樹	税理士



Kyoto/Nara/Fukui/Shiga
R.I.D.2650
2008-2009

国際ロータリー第2650地区

2008-2009年度 ガバナー 川端 五兵衛

■ガバナー 事務所

〒523-0892 滋賀県近江八幡市出町413-5

Tel.0748-31-2650 Fax.0748-31-2651

E-mail:gov08-09.2650@joy.ocn.ne.jp